2026　年度 授業計画(シラバス)

学　　科	理学療法士学科	科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	解剖学Ⅱ	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60　(4)　時間(単位)
対 象 学 年	1年	学期及び曜時限	通年　月・1限	教室名	視聴覚室　他
担 当 教 員	早川　大輔	実務経験とその関連資格	非常勤医師として病院勤務の経験あり。		

《授業科目における学習内容》

人体の神経系について、正常な構造(解剖学)を学ぶ。画像等を供覧し、病態生理の理解やリハビリテーションの実践に役立てられるように動機付ける。解剖学の指定教科書に沿い、生理機能、臨床的事項を補いながら講義を展開する。

《成績評価の方法と基準》

期末試験(筆記)100%で評定する。

《使用教材(教科書)及び参考図書》

【使用教材】 標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　解剖学(医学書院)
【参考図書・テキスト】・ 生理学テキスト(文光堂) ・PT・OT　基礎から学ぶ解剖学ノート(医歯薬出版) ・PT・OT　基礎から学ぶ生理学ノート(医歯薬出版) ・PT・OT必修シリーズ　消っして忘れない　生理学要点整理ノート(羊土社)
その他、適宜資料を配布する。

《授業外における学習方法》

教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキスト・配布資料などで理解を定着させる。

《履修に当たっての留意点》

初出の事項が多く戸惑うと思うが、丸暗記ではなく繰り返し復習して「理解する」ように努めてください。

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	神経系の基本的な構造が説明できる。	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。
		各コマにおける授業予定	神経系総論①(神経系の区分、構成)		
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	髄膜・脳室系の構造と機能を説明できる。 神経系の発生に関して説明できる。	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。
		各コマにおける授業予定	神経系総論②(髄膜・脳室系、神経系の発生)		
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	脊髄の構造と機能を説明できる。	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。
		各コマにおける授業予定	中枢神経系①(脊髄)		
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	延髄・橋の構造と機能を説明できる。	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。
		各コマにおける授業予定	中枢神経系②(脳幹:延髄・橋)		
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	中脳・網様体の構造と機能を説明できる。	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。
		各コマにおける授業予定	中枢神経系③(脳幹:中脳・網様体)		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	小脳の構造と機能を説明できる。	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。
		各コマにおける授業予定	中枢神経系④(小脳)		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	間脳の構造と機能を説明できる。	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。
		各コマにおける授業予定	中枢神経系⑤(間脳)		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	大脳辺縁系、大脳基底核の構造と機能を説明できる。	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。
		各コマにおける授業予定	中枢神経系⑥(大脳辺縁系、大脳基底核)		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	終脳の構造と機能を説明できる。	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。
		各コマにおける授業予定	中枢神経系⑦(終脳1)		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	終脳の構造と機能を説明できる。	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。
		各コマにおける授業予定	中枢神経系⑧(終脳2)		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	神経路とその機能を説明できる。	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。
		各コマにおける授業予定	中枢神経系⑨(神経路1)		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	神経路とその機能を説明できる。	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。
		各コマにおける授業予定	中枢神経系⑩(神経路2)		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	神経系の解剖学的・組織学的構造および生理学的作用が説明できる。 中枢神経系（脳および脊髄）や神経路の構造と機能を説明できる。	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。
		各コマにおける授業予定	神経系総論・中枢神経系の総括①		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	神経系の解剖学的・組織学的構造および生理学的作用が説明できる。 中枢神経系（脳および脊髄）や神経路の構造と機能を説明できる。	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。
		各コマにおける授業予定	神経系総論・中枢神経系の総括②		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	神経系の解剖学的・組織学的構造および生理学的作用が説明できる。 中枢神経系（脳および脊髄）や神経路の構造と機能を説明できる。	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。
		各コマにおける授業予定	神経系総論・中枢神経系の総括③		

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　　科	理学療法士学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	解剖学Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60　(4)　時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時限	通年　月・1限	教室名	視聴覚室　他
担 当 教 員	早川　大輔	実務経験とその関連資格	非常勤医師として病院勤務の経験あり。			

《授業科目における学習内容》

人体の神経系について、正常な構造(解剖学)を学ぶ。画像等を供覧し、病態生理の理解やリハビリテーションの実践に役立てられるように動機付ける。解剖学の指定教科書に沿い、生理機能、臨床的事項を補いながら講義を展開する。

《成績評価の方法と基準》

期末試験(筆記)100%で評定する。

《使用教材(教科書)及び参考図書》

【使用教材】 標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　解剖学(医学書院)
【参考図書・テキスト】・ 生理学テキスト(文光堂) ・PT・OT　基礎から学ぶ解剖学ノート(医歯薬出版) ・PT・OT　基礎から学ぶ生理学ノート(医歯薬出版) ・PT・OT必修シリーズ　消って忘れない　生理学要点整理ノート(羊土社)
その他、適宜資料を配布する。

《授業外における学習方法》

教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキスト・配布資料などで理解を定着させる。

《履修に当たっての留意点》

初出の事項が多く戸惑うと思うが、丸暗記ではなく繰り返し復習して「理解する」ように努めてください。

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第16回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	末梢神経系の構造と機能を説明できる。	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。
		各コマにおける授業予定	末梢神経系(脳神経及び脊髄神経)総論		
第17回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	脊髄神経系(頸神経)の構造と機能を説明できる。	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。
		各コマにおける授業予定	脊髄神経①(頸神経)		
第18回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	脊髄神経系(頸神経)の構造と機能を説明できる。	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。
		各コマにおける授業予定	脊髄神経②(頸神経)		
第19回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	脊髄神経系(胸神経、腰神経)の構造と機能を説明できる。	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。
		各コマにおける授業予定	脊髄神経③(胸神経、腰神経)		
第20回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	脊髄神経系(腰神経、仙骨神経)の構造と機能を説明できる。	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。
		各コマにおける授業予定	脊髄神経④(腰神経、仙骨神経)		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第21回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	脳神経の構造と機能を説明できる。	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。
		各コマにおける授業予定	脳神経①		
第22回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	脳神経の構造と機能を説明できる。	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。
		各コマにおける授業予定	脳神経②		
第23回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	脳神経の構造と機能を説明できる。	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。
		各コマにおける授業予定	脳神経③		
第24回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	自律神経系の働きについて説明できる。	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。
		各コマにおける授業予定	自律神経系の働き		
第25回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	皮膚の構造と機能について説明できる。	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。
		各コマにおける授業予定	感覚器①(皮膚)		
第26回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	視覚器の構造と機能について説明できる。	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。
		各コマにおける授業予定	感覚器②(視覚器)		
第27回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	平衡聴覚器などの構造と機能について説明できる。	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。
		各コマにおける授業予定	感覚器③(平衡聴覚器、その他)		
第28回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	神経系・感覚器系の解剖学的・組織学的構造、生理学的作用が説明できる。	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。
		各コマにおける授業予定	神経系・感覚器系総括①		
第29回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	神経系・感覚器系の解剖学的・組織学的構造、生理学的作用が説明できる。	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。
		各コマにおける授業予定	神経系・感覚器系総括②		
第30回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	神経系・感覚器系の解剖学的・組織学的構造、生理学的作用が説明できる。	教科書 視聴覚教材	教科書の内容を図表を中心に予習。授業で学んだことをノートにて復習する。参考図書・テキストなどで理解を定着させる。
		各コマにおける授業予定	神経系・感覚器系総括③		